

03 巻頭言

サービス依存より、「地域のAsset(資源)」づくり!

松岡 洋子 (まつおか・ようこ)

東京家政大学 人文学部教育福祉学科 准教授

1997年デンマークに暮らし、高齢者が人生の主役として生きる姿、住宅政策と24時間ケアによってエイジング・イン・プレイスを進めている様子に感動し、高齢者福祉の研究を始める。著書に『「老人ホーム」を超えて』(クリエイツかもがわ、2001)、『デンマークの高齢者福祉と地域居住』(新評論、2005)、『エイジング・イン・プレイス(地域居住)と高齢者住宅』(新評論、2011)など。博士(社会福祉学)、社会福祉士。

04 Dia Report

要介護高齢者の残存能力を最大化する住環境評価指標に関する研究

土屋 瑠見子 (つちや・るみこ)

—なぜ日本で要介護高齢者のアクセシビリティを評価する必要があるのか—

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 研究員

2017年東京大学大学院修了。公衆衛生学修士(専門職)、博士(保健学)。医療法人鉄蕉会亀田メディカルセンター(理学療法士)、東京大学高齢社会総合研究機構(学術支援専門職員)を経て2017年3月より現職。専門は、リハビリテーション、老年学、公衆衛生学。財団では「ケアの質のアウトカム評価」、「住環境評価指標研究」を主に担当。

08 フォーカス高齢社会

高齢者主体による健康なまちづくりへの期待

佐藤 美由紀 (さとう・みゆき)

佐久大学 看護学部 教授

桜美林大学大学院老年学研究科博士後期課程修了。博士(老年学)。北海道今金町保健師、北海道医療大学看護福祉学部助教、神奈川工科大学看護学部准教授等を経て2018年より現職。専門は公衆衛生看護学。研究は、住民主体による健康なまちづくりのアクションリサーチに取り組んでいる。著書に『保健福祉学：当事者主体のシステム科学の構築と実践』(共著、北大路書房)などがある。

10 財団研究紹介

インターネットを用いたメンタルヘルスの維持・増進に向けた取り組み

安 順姫 (あん・じゅんき)

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 研究員

桜美林大学大学院卒、老年学修士。ダイヤ財団の研究助手を経て2015年より現職。研究テーマは介護予防教室終了後の自主活動定着のための支援。財団では「うつ予防プログラムの効果検証及び普及定着」、「うつ予防教室終了後の自主グループ活動の推進」を担当。

12 Dia Information

発行者

公益財団法人 **ダイヤ高齢社会研究財団**

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-34-5 VERDE VISTA 新宿御苑 3F

TEL:03-5919-1631 FAX:03-5919-1641

E-mail:info@dia.or.jp http://www.dia.or.jp

編集人：鈴木章一 デザイン・印刷：橋本確文堂（三菱製紙ホワイトニューVマット） 発行：2019.10.25 No.99